

第18回北区長旗争奪軟式少年野球大会 取 決 事 項

1 大会運営について

- (1) ベンチは、組み合わせ番号の若い方が1塁側とする。
- (2) 試合中にベンチに入れるのは、登録選手と、登録指導者（スコアラー含む）6名までとする。
- (3) 「試合記録員」として、当該試合チームから1名ずつ選任し、本部に着席して記録を行う。試合記録員はチーム帽子を原則着用すること。
- (4) 指導者（スコアラー含む）の服装は、大会にふさわしいユニホーム又はチーム統一の服を着用しなければならない。（ただし合同チームは統一でなくてもよい。）
- (5) ユニホームは、チーム統一とし、選手は背番号を付けることを原則とする。（ただし合同チームは統一でなくてもよい。）
- (6) 試合開始時刻30分前までに、監督は主将を伴い、メンバー表を本部に3部（決勝戦及び3位決定戦は4部とし、フルネームでふりがなを記載すること）提出すること。
本部・審判は、提出されたメンバー表のチェックを行い、誤りがあれば訂正させること。
- (7) 試合開始時刻になっても球場に来ないチームは、放棄試合とみなす。
- (8) ファウルボールは打球方向のベンチ側が処理すること。
- (9) 少年野球用のスパイクは各会場のグラウンドルールで認められていれば、使用可とする。ただし、金属スパイクは不可とする。
- (10) 捕手は必ずマスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファウルカップを着用のこと。また、攻守交代時の投球練習を受ける捕手もマスク、プロテクター、レガース、ヘルメット、ファウルカップを着用することが望ましいが、最低限マスク、ヘルメットは必ず着用すること。
- (11) 打者、次打者、走者、ベースコーチは必ずヘルメットを着用すること。
- (12) JSBB 公認軟式用金属バット（一般用を含む）、複合バット（打球部に柔らかい高反発素材を使用したもの）、木製バットの使用を認める。ただし、安全上から一般用（大人用）複合バットの使用は認めない。
*（9）～（12）：子供の安全面を考え、試合前の道具チェックを徹底する。（下記4（6））
（試合前に本部から審判に指示をしてもらう。）
- (13) 指名打者制度（DH 制）を使用することができる。ただし、二刀流選手「大谷ルール」を採用しない。
- (14) 雨天の場合、事前連絡の無い時は試合を行うと考え必ず球場に集合のこと。
- (15) 大会当日において降雨、その他の理由によって試合不可能のおそれのある場合、運営委員会は、第1試合開始1時間30分前までに事務局と協議し中止等の連絡をするものとする。
- (16) 球場提供チームに対して、各使用チーム指導者は、善意をもってグラウンド整備・後片づけに協力すること。
- (17) 監督は、監督と識別できるもの（名札等）を着用し、監督であることを明示すること。
- (18) 学校行事に関しては参加申請時に必ず報告しておくこと。変更があった際は、追加・訂正期限までに報告しておくこと。
* 試合参加できる最小人数は9人とする。
* 報告を怠った際は、コールドゲーム（スコア0－10）とする
- (19) 感染症等、特段の事情がある場合、特例として選手追加登録を認める。
ただし試合の開始までに事務局（運営委員会）又は本部に報告する。

- (20) 上記(19)にもかかわらず、感染症による学級閉鎖により選手が揃わない場合、試合予定を考慮（延期）する。（ただし、前日までに連絡がある場合のみ）
- (21) 第1回戦に学校行事が重なるチームは、抽選会において考慮する。

2 試合要項

- (1) 試合使用球は、A & Bの部はマルエスJ号球（各チームで用意）、ジュニアの部はアルペンオリジナルボールJ号球（本部で用意）を使用する。
- (2) 試合は、トーナメント方式とする。
- (イ) 試合時間は、A & Bの部は1時間30分、6回戦とし、ジュニアの部は1時間20分、5回戦とし、時間を超えて新しいイニングに入らない。
- 但し、試合終了時同点の場合はタイブレーク方式を採用して攻守1回毎で勝敗を決すこととし、攻守2回行って勝敗が決しないときは抽選により決定する。なお、決勝戦・3位決定戦はタイブレーク方式により勝敗が決するまで行う。
- タイブレーク方式は、ノーアウト・満塁方式継続打順を採用する。
- (ロ) A & Bの部においては4回を終了した時点で10点以上、5回を終了した時点で7点以上の差がついた場合、ジュニアの部においては3回を終了した時点で10点以上、4回を終了した時点で7点以上の差がついた場合、コールドゲームとする。（ただし、決勝戦・3位決定戦は除く。）
- (ハ) 4回終了時点で試合成立する。（降雨、荒天、日没等により試合を継続出来ないと審判員が判断した場合は4回表裏を完了した後であればコールドゲームを適用し正式試合とする。また4回表終了時、または4回裏の途中で打ち切りとなった場合で後攻チームの得点が多い場合も同様（正式試合）とする。正式試合となる前に打ち切りとなった場合は「ノーゲーム」、4回表裏を完了後、同点の際は再試合とする。）
- (3) 試合規則については、公認野球規則を適用するが、神戸市少年団野球リーグ北地区委員会に所属するチームについては、神戸市少年団野球リーグ規則を原則遵守する。
- (4) 試合中は監督、コーチはベンチを離れてはならない。（トイレ使用の場合のみ球審の許可を得てベンチ外に出る事が出来る。）なお、試合中の携帯電話の使用は禁止する。
- (5) 試合中の裁定は、一切審判員に任せ、ルール確認権は監督のみとする。
- (6) 投手のバークは即、適用する。（走者がいる場合1個の進塁を与える。）ただし、ジュニアの部においては、1回目は注意とする。
- (7) インフィールドフライは、A & Bの部では適用し、ジュニアの部では適用しない。
- (8) 投手は、変化球を投げてはならない。投手が変化球を投げた場合は、注意を与えボールとする。変化球の判断は球審が行なう。
- (9) 移動ベースを基本とし、各ベースが移動した場合は、審判が適宜タイムをかけベースを直す。
- (10) 塁間等は、A & Bの部では、塁間 23m、投手・捕手間 16mとし、ジュニアの部では、塁間 21m、投手・捕手間 14mとする。
- (11) ①A & Bの部では、大会初日のメイングラウンド・サブグラウンドのホームランラインは 60mとする。大会最終日にメイングラウンドで行われる優勝決定戦及び3位決定戦においては、ホームランラインを設けないものとする。
- ②ジュニアの部では、大会初日のサブグラウンド・大会最終日のサブグラウンドのホームランラインは 60mとする。
- ③メイングラウンド・サブグラウンドを除く北区内のその他グラウンドにおけるホームランライン

は、A & Bの部・ジュニアの部とも当該グラウンドルールによるものとする。

また、試合前に4審判と両チーム監督は、当該グラウンドルールを必ずお互い確認すること。

- (12) 投手の球数は、A & Bの部では1日70球まで、ジュニアの部では60球までと制限する。原則、A & Bの部は65球時に、ジュニアの部では55球時に、本部からアナウンスをする。登板中に制限球に達した場合は、当該打者が打撃を完了するまで投球することができる。なお、この球数制限は同日に行う複数試合の球数を通算して適用するため、本部へ試合結果を報告する際に、投手ごとの球数を速やかに報告するものとする。

3. 試合進行について

- (1) 試合前シートノックは5分以内とし、ベンチ入り後速やかに開始する。なお、大会運営上短縮又はなしとする場合がある。ノッカー及びノッカー補助は3名以内とする。シートノック終了後は、両チーム指導者でグラウンド整備を行う。
- (2) 投球練習は、当初及び交代時5球。次回から3球とする。
- (3) 対戦チームや審判員を誹謗する言動は厳禁とする。故意に投球動作を妨げるような声援は禁止する。また、自チーム選手を叱咤激励するための暴言も認めない。
- (4) フェアーかファウル、ストライクかボール、アウトかセーフかという判定に限らず審判員の判断に基づく判定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチがその裁定に対して異議を唱えることは許されない。監督だけがその裁定が規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請する（アピール）事が出来る。
- (5) 審判員がその裁定に対してアピールを受けた場合は、最終の裁定を下すにあたって、他の審判員と協議して意見を求めることが出来る。
- (6) 攻守交替は全力で行うこと。（審判員はそれを促す）
- (7) タイムの回数は、攻守で各3回までとする。タイブレーク方式の場合は、攻守1回毎にタイム1回を認める。タイムは1分を限度とするが、審判が認めた場合はその限りではない。尚、試合進行上不必要なタイムは審判が認めない場合がある。
- (8) 事故防止のため、試合前ベンチ入り後はグラウンド内での打撃練習を禁止する。また、試合中は次打者のダートサークル付近を除きバットの素振りを禁止する。
- (9) メンバー交代表について、3名以上の選手交代がある場合は交代表を提出しなければならない。2名以下の場合は口頭での選手変更を行う。ただし、決勝戦・3位決定戦は、人数に関わらず交代表を提出すること。

4 審判制度について

- (1) 審判は相互審判とする。準決勝、3位決定戦、決勝は審判長・副審判長が指名したものが行う。審判は規定のプロテクター等を着用する。
- (2) 第一試合の審判は原則として試合開始1時間前にグラウンドに集合し、グラウンドの整備（試合の出来る状態）等を行う。また、最終試合の審判は、グラウンドの後片づけ等を行う。
- (3) 第二試合以降の審判員は、原則として試合開始30分前までに本部に登録する。
- (4) 塁審は試合中、次の事の確認を行う。
- (イ) 一塁 アウトカウント 二塁 ボールカウント 三塁 各回の得点
- (ロ) 一塁・三塁側選手の喚起
- (5) 責任審判、試合前に4審判協議のうえ責任審判員を決め、球審が両ベンチに告げる。その試合のト

ラブルは責任審判員が責任を持って解決する。

- (6) 審判は試合前に両チームの用具チェックを必ず行うこと。
- (7) 帽子は審判帽を着用し下は黒または紺のスラックス、上は各リーグで認められた審判の服装を着用すること。